

学科専攻名	物理学及応用物理学専攻
課程	修士課程・博士課程
授与している学位	修士(理学)、修士(工学)、博士(理学)、博士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>物理学及応用物理学専攻では、現代物理学の重要な課題とその工学的応用について教育研究活動を行っている。現代物理学とその応用に関する最先端の専門知識・技術と研究手法、及び、未開拓の領域に挑戦することのできる能力、すなわち課題発見・解決能力、ならびに情報発信・コミュニケーション能力を習得することを旨としており、以下のような方針で各学位を授与する。</p> <p>修士(理学): 現代物理学の専門知識・技術と課題を解決する研究能力の修得。 修士(工学): 現代物理学の応用に関する専門知識・技術と研究能力の修得。 博士(理学): 現代物理学の先端的課題を解決する実践的研究能力の修得。 博士(工学): 現代物理学の応用研究を開拓する実践的研究能力の修得。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>物理学及応用物理学の主要な研究分野である数理物理学、原子核・素粒子理論、素粒子・放射線実験、宇宙物理学、物性理論、凝縮系物理学、生物物理学、情報・物理工学について最先端の専門知識と研究手法を学び、現代物理学の課題解決及び工学的応用の研究に従事することによって、実践的研究能力(課題発見能力、課題解決能力、文章並びに口頭でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力)を涵養する。当専攻での学修においては、学部での物理学科、応用物理学科卒業と同程度の学識を身につけていることを前提としており、その基礎に立脚して以下のような方針で学修を進める。</p> <p>修士(理学): 現代物理学の専門知識・技術と課題を解決する研究能力の学修。 修士(工学): 現代物理学の応用に関する専門知識・技術と研究能力の学修。 博士(理学): 現代物理学の先端的課題を解決する実践的研究能力の学修。 博士(工学): 現代物理学の応用研究を開拓する実践的研究能力の学修。</p>

学修成果1.	<p>数理物理学、原子核・素粒子理論、素粒子・放射線実験、宇宙物理学、物性理論、凝縮系物理学、生物物理学、情報・物理工学における専門知識の習得。 修士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門知識の習得。 修士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門知識の習得。 博士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門知識の習得。 博士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門知識の習得。</p>
学修成果2.	<p>数理物理学、原子核・素粒子理論、素粒子・放射線実験、宇宙物理学、物性理論、凝縮系物理学、生物物理学、情報・物理工学における専門技術の習得。 修士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門技術の習得。 修士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門技術の習得。 博士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門技術の習得。 博士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の専門技術の習得。</p>
学修成果3.	<p>数理物理学、原子核・素粒子理論、素粒子・放射線実験、宇宙物理学、物性理論、凝縮系物理学、生物物理学、情報・物理工学における研究手法の習得。 修士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の研究手法の修得。 修士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の研究手法の修得。 博士(理学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の研究手法の修得。 博士(工学): 現代物理学とその応用に関する諸分野の研究手法の修得。</p>
学修成果4.	<p>現代物理学とその応用研究を開拓する進取の精神の修得。 修士(理学): 現代物理学の課題解決の研究に挑戦する進取の精神の修得。 修士(工学): 現代物理学の工学的応用の研究に挑戦する進取の精神の修得。 博士(理学): 現代物理学の課題解決の研究に挑戦する進取の精神の修得。 博士(工学): 現代物理学の工学的応用の研究に挑戦する進取の精神の修得。</p>
学修成果5.	<p>現代物理学とその工学的応用分野での研究展開能力(現代物理学とその工学的応用について重要な課題を発見して研究計画を立案する能力)の修得。 博士(理学): 現代物理学の先端的課題を解決する研究展開能力の修得。 博士(工学): 現代物理学の工学的応用を開拓する研究展開能力の修得。</p>
学修成果6.	<p>現代物理学とその工学的応用分野での研究情報発信能力(文章並びに口頭でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力)の修得。 博士(理学): 現代物理学の先端的課題解決に関する研究情報発信能力の修得。 博士(工学): 現代物理学の工学的応用開拓に関する研究情報発信能力の修得。</p>

学科専攻名	化学・生命化学専攻
課程	修士課程・博士課程
授与している学位	修士(理学)・博士(理学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	本専攻では、物質の反応性や物性を原子・分子のレベルで解明するために、量子化学計算法や各種分光法の開発、新規の有機化合物や金属錯体合成法の開拓、反応機構の解析、有用な機能や反応性をもつ化合物の合成、化学を基盤とした生命科学研究などを通して、化学の基礎力に裏打ちされた柔軟な思考力と創造性を持つ人材の育成を目指す。この目標の実現のため、物理化学、有機化学、無機・分析化学、生命化学の各専門家が高度な最先端の専門教育・研究指導を行う。修士課程において、各教員の研究指導のもとで研究を行い、研究成果を修士論文としてまとめる。修士論文の審査を行い、化学・生命化学領域において自然科学の観点からその本質を探究する知識と能力を有し、倫理観を具備すると認められた場合に、修士(理学)の学位を授与する。博士課程においては、研究指導のもとで独創的な研究を行い数編の査読付き論文を国際誌や学会等で発表し、研究成果を博士論文としてまとめる。博士論文の審査において、自然科学の高度な知識と新たな心理を解明する能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	専攻共通の研究倫理科目に加えて、各部門(物理化学、有機化学、無機・分析化学、生命化学)において、各教員による研究指導のほか、特論科目と演習科目を設置している。また、他大学教員による集中講義も行われる。修士課程においては、指導教員が担当する演習科目を必ず履修する必要がある。また、履修することが望ましいコア科目と推奨科目が設置されており、所定の単位を取得する必要がある。博士課程においては、必修の科目である研究倫理系科目とDoctoral Student Technical Writingのほか、所定の講義科目の単位を取得する必要がある。

学修成果1.	各分野の専門的な知識や高度な実験操作を習得し、各分野の研究を主体的に行うことができる。
学修成果2.	自然科学の研究者としての正しい倫理観を身につける。
学修成果3.	研究成果を適切にまとめ、国内外の学会で発表する能力を身につける。
学修成果4.	研究を通じて自ら問題を発見し解決する能力を身につけ、“考え、実験する化学”を実践できる。
学修成果5.	
学修成果6.	

学科専攻名	応用化学専攻
課程	修士課程 ・ 博士課程
授与している学位	修士(工学) ・ 博士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	最先端の化学の専門知識、化学に関する広範な分野の知識と、現代社会の課題解決と持続可能な社会の実現に向けた化学の応用を学修する。学術的および社会的課題を発見し、その解決方法を設計する実践力を培う。化学の学術的価値および社会的価値を創出する研究力を身につける。工学の基礎知識を応用する技術と能力を有する者に対して修士(工学)の、工学の幅広い知識を備えて応用を実現する技術と能力を有する者に対して博士(工学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	最先端の化学、関連分野、および社会課題と持続可能性への化学の応用を教授する多数の講義科目を設置している。課題の発見および解決方法の設計を可能とする実践力を培う演習科目を設置している。化学に関連する学術的価値および社会的価値を創出する研究力を養う研究指導および修士論文・博士論文を設置している。

学修成果1.	最先端の化学の専門知識、化学に関する広範な分野の知識と、現代社会の課題と持続可能性についての知識を有している。
学修成果2.	学術的および社会的課題を発見し、その解決方法を設計する実践力を有している。
学修成果3.	化学の学術的価値および社会的価値を創出する研究力を有している。
学修成果4.	
学修成果5.	
学修成果6.	

学科専攻名	生命医科学専攻
課程	修士課程・博士課程
授与している学位	理学、工学

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>マイクロやナノといった分子レベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学、医科学、医工学の知識を身につける。これらの知識を活かし、理工系と医学系の2つの分野を融合させた新たな分野の研究を展開する力を身につける。修士論文の審査を行い、生命科学・医科学領域において自然科学の観点から真理を探究する知識と能力を有すると認められた場合に、修士(理学)の学位を授与する。医科学・医工学領域において工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に、修士(工学)を授与する。博士課程においては、研究指導のもとで独創的な研究を行い論文を国際誌・学会などで発表し、研究成果を博士論文としてまとめあげる。博士論文の審査において、自然科学の高度な知識と新たな真理を解明する能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合には、博士(工学)の学位を授与する。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>講義科目では、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目に加えて、実際の研究・開発に必要な情報科学や研究倫理をバランスよく学ぶ。配属研究室において化学物質や分析装置の取扱い、遺伝子・タンパク質の取扱い、細胞培養、動物実験を実践的に学び、さらにバイオイメージングやバイオマテリアルを用いた最新のバイオテクノロジーを身につける。これらの知識と技術を活かし、修士課程では実践的な研究を行い修士論文にまとめ、その遂行能力と論文執筆の能力を評価する。博士課程では研究指導のもと独創的な研究を行い、国際学会や国際誌で発表し、博士論文としてまとめる能力を身につける。</p>

学修成果1.	分子・細胞レベルで生命現象を理解・探求する力を身につける。
学修成果2.	生命科学・医科学研究を推進する際の道具として物理・化学・数学・情報科学を使いこなす力を身につける。
学修成果3.	理工学と生命科学の知識を統合し、先端バイオテクノロジーを開発する力を身につける。
学修成果4.	基礎医学と医工学を学び、病気の原因の探求や診断・治療技術を開発する力を身につける。
学修成果5.	最先端の生命科学研究事例を理解し、独創的な研究をグローバルに展開する力を身につける。
学修成果6.	

学科専攻名	電気・情報生命専攻
課程	修士課程 ・ 博士課程
授与している学位	工学・理学

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>生命・電気・電子・情報という広範な学問領域を、共通基礎科目および各領域に特化した専門科目を履修することにより体系的にそれぞれの領域の本質に触れるとともに、異なる分野の多様な思考プロセスを俯瞰することにより、既存の学問領域の垣根を越えた視点から物事を捉える能力を身に付ける。</p> <p>そして、修士課程において、教員の研究指導のもとで研究を行い、研究成果を修士論文としてまとめあげる。修士論文の審査を行い、電気工学、電子工学、情報工学の領域において工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に、修士(工学)を授与する。また、生命科学、情報科学の領域において、自然科学の観点から真理を探究する知識と能力を有すると認められた場合に、修士(理学)の学位を授与する。博士課程においては、研究指導のもとで独創的な研究を行い数編の論文を国際誌・学会などで発表し、研究成果を博士論文としてまとめあげる。博士論文の審査において、工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合には、博士(工学)の学位を授与する。また、自然科学の高度な知識と新たな真理を解明する能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。</p> <p>修士(工学) 工学の基礎知識を応用する技術と能力を有する。 博士(工学) 工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有する。</p> <p>修士(理学) 自然科学の観点から真理を探究する知識と能力を有する。 博士(理学) 自然科学の高度な知識と新たな真理を解明する能力を有する。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>生命・電気・電子・情報という広い学問領域の中で、自身の適性や修得すべき知識・技術を見出すことが可能となるように、研究分野と学科目との関連性を履修ロードマップという形式で明示し、多様な科目の中から主体的に履修できるように設計している。</p>

学修成果1.	電力・エネルギー応用システムのための電気・エネルギー系専門知識を身に付け、未来の科学技術に貢献し、国際性豊かなコミュニケーション力を身に付ける。
学修成果2.	ナノサイエンスや医用エレクトロニクスのための電子・材料系専門知識を身に付け、未来の科学技術に貢献し、国際性豊かなコミュニケーション力を身に付ける。
学修成果3.	システムデザインやデータサイエンスのための制御・情報系専門知識を身に付け、未来の科学技術に貢献し、国際性豊かなコミュニケーション力を身に付ける。
学修成果4.	生命科学や生物工学を理解するための生命システムの動作原理の専門知識を身に付け、未来の科学技術に貢献し、国際性豊かなコミュニケーション力を身に付ける。
学修成果5.	融合領域研究を推進するための俯瞰的な知識を身に付け、未来の科学技術に貢献し、国際性豊かなコミュニケーション力を身に付ける。
学修成果6.	

学科専攻名	生命理工学専攻
課程	修士課程、博士課程
授与している学位	修士(工学)、修士(理学)、博士(工学)、博士(理学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>生命理工学専攻は複数の学科、学術院から教員が参画して、“工学”と“理学”の融合を図り、さらに東京女子医科大学の“医学”も加えた独創的な教育、研究環境の整備を進めてきた。</p> <p>教育、研究の多くは、先端生命医科学センター(TWIns)において展開される。バックグラウンドの異なる教員が集結し、独創的な研究を行う環境を整備している。本専攻では、社会のニーズに合致したバイオ新産業に果敢に挑戦できるエンジニアや生物学研究の最先端を切り拓く人材を育成する。</p> <p>修士課程では、修士論文の審査を行い、機械工学、物理学、化学、または人間科学における専門的知識に加え、生命理工学の各専門分野における知識と研究の推進能力が十分であると認められた場合に、修士(工学)を授与する。また、生物学、または物理学における専門的知識に加え、生命理工学の各専門分野における知識と研究の推進が十分であると認められた場合に、修士(理学)の学位を授与する。</p> <p>博士課程では、各研究領域での研究指導のもと、生命科学、バイオエンジニアリングの学際的研究領域を開拓、発展、深化する独創的研究を行い、査読付き論文として発表する。博士論文の審査において、機械工学、物理学、化学、または人間科学を活用して生命に関する独創的な学際領域研究を自ら遂行する能力を有すると認められた場合には、博士(工学)の学位を授与する。生物学、または物理学を活用して、生命に関する独創的な学際領域研究を自ら遂行する能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>学際領域専攻としての特徴を生かすため、バックグラウンドの異なる教員が生命理工学に係る多様な特論科目を用意している。また、先端医療の見学を通じた議論や、生体工学分野のものづくりや電子工作を体験できる実習科目を用意している。なお、2001年の開設当初から、生命理工学分野に不可欠な倫理教育科目と、様々なバックグラウンドを有する学生が共通の課題に向かってグループワークを行い、生命理工学専攻の教員と討論を行う2つの必須特論科目を用意している。</p>

学修成果1.	生命理工学分野の各専門知識を習得する。
学修成果2.	生命倫理に係る知識を習得する。
学修成果3.	専門分野の異なる学生と学際的課題に関するグループワークを行い、わかりやすくプレゼンテーションする能力を獲得する。
学修成果4.	研究指導、演習科目を通じて、研究推進に直接必要な知識を獲得しつつ、論理的に構成する力、表現する力を習得する。
学修成果5.	修士論文研究、博士論文研究を通じて、問題の本質を見出す力、自ら構想する力、学際的専門知識を活用して課題を解決する力を習得する。
学修成果6.	学術的価値のある修士論文、博士論文を書く力を身に着ける。なお、博士課程の研究においては、査読付きのオリジナル論文を規定の数以上発表する。

学科専攻名	ナノ理工学専攻
課程	修士課程・博士課程
授与している学位	修士(理学)、修士(工学)、博士(理学)、博士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>ナノ理工学専攻には、ナノエレクトロニクス分野、ナノケミストリー分野、ナノ基礎物性分野があり、それぞれの特徴を活かした専門分野を構成している。原子・分子スケールから理解を深めるナノサイエンスおよびナノテクノロジーは、あらゆる科学技術分野における基礎・基盤をなす学問分野であり、本専攻では上記3分野に属する専門家が多様かつ相補的・融合的な専門教育・研究指導を提供する。修士課程においては、専門的な講義・演習の受講に加えて教員の研究指導の下で研究を行い、研究成果を修士論文としてまとめ上げる。研究実施においては、特に、国際会議での発表や英語論文の投稿を始めとする成果の発信も推奨している。修士論文の審査において、自然科学の観点から真理を探究する知識と能力を有すると認められた場合に修士(理学)の学位を授与する。また、工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に修士(工学)の学位を授与する。博士課程においては、教員の研究指導の下で独創的な研究を行い、国際会議や論文にて成果を発表する。それらの成果を博士論文としてまとめ上げる。博士論文の審査において、自然科学の高度な知識と新たな真理を探究するための能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。また、工学の幅広い知識を備え、その応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合には、博士(工学)の学位を授与する。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>本専攻は学際領域専攻として位置付けられる。学部教育で身につけた基礎知識を基に、学生はナノサイエンスおよびナノテクノロジーに関する教育を全く新しい環境で受けることになる。具体的には、最先端の研究を推進する教員による研究指導に加えて、学際領域における多様な講義ならびに演習が用意されている。修士(理学)の学位を取得しようとする学生に対しては、全く新しい学問領域を協力して開拓するために必要な能力を身につけるための教育を行う。修士(工学)の学位を取得しようとする学生に対しては、新産業創出に貢献する能力を身につけるための教育を行う。博士(理学)の学位を取得しようとする学生に対しては、全く新しい学問領域を独自に開拓する実践的な教育を行う。博士(工学)の学位を取得しようとする学生に対しては、新産業創出に関わる実践的な教育を行う。</p>

学修成果1.	物理化学現象をそれらの基本原理から理解し、新規現象の探索とその原理解明を通して新たな科学・技術の創成に貢献する能力をつける。
学修成果2.	科学・技術に対する現代社会の要請を的確に把握・理解し、新しい研究分野・体系を構築する創造力をつける。
学修成果3.	国際性豊かなコミュニケーション力により研究を推進し、成果を社会へと還元できる。
学修成果4.	主体的に問題を解決する能力に加えて、多様な人々と協働して問題を解決する能力とを備え、様々な問題の解決に当たることができる姿勢。
学修成果5.	
学修成果6.	

学科専攻名	共同先端生命医科学専攻
課程	博士課程
授与している学位	博士(生命医科学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	医療レギュラトリーサイエンスは、生命科学・医薬・医療機器・医療技術・医療政策の社会実装における評価・予測・調整・決断を科学的根拠に基づいて行うために、自然科学(医学・工学)のみならず、社会科学(経済学・経営学・法学など)や人文科学(倫理学・心理学など)を融合的に体系化するものである。従って、(1)科学研究の手法と専門知識とを修得しており、当該分野の専門家として国内外での専門学会・委員会で活動する能力とリーダーとして社会への実践的貢献(知の活用)ができる能力があると認められ、かつ、(2)新規課題の発見と調査分析、評価尺度や技術標準の提案、実験分析手法の開発、課題解決策や政策の立案などを通じて、新分野を開拓する科学研究を博士論文として提出した者に学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	医療レギュラトリーサイエンス分野のディプロマ・ポリシーに掲げた内容の能力を涵養できるような教育課程を提供する。当該分野の基礎である、生物統計学・生命医療倫理学・臨床研究・医療レギュラトリーサイエンスのカリキュラムを用意する。更にそれに対応する演習科目、先端医療の現場での実習、他分野の専門家と議論するセミナー科目を設置し、研究指導と連携して、課題発見・解決・コミュニケーション・プレゼンテーション能力を涵養する。なお、医療レギュラトリーサイエンス分野の研究テーマが極めて多岐に渡るため、多様な分野の教員が必要であり、外部の専門家も入れて担当教員を配置する。

学修成果1.	医療レギュラトリーサイエンス分野の専門知識を幅広く習得し、それを社会で応用する能力を身に付ける。
学修成果2.	医療レギュラトリーサイエンス分野の異分野融合を体験することで、研究・開発・審査・医療・患者・社会などの多角的な立場で思考できる能力を身に付ける。
学修成果3.	正しい生命倫理の理解から、それを実践するための思考力・判断力・調整力を身に付ける。
学修成果4.	薬事や医療の現状を調査し、数値データとして客観的に捉え、統計的手法により分析した結果を基に論理を構成する能力と表現力を習得する。
学修成果5.	医療が社会にもたらす影響について、国際的な比較調査とコミュニケーションによって潜在する本邦での問題を発見できる力を習得する。
学修成果6.	生命科学・医療・社会の事象を多面的に捉え、医療の現状を健全に批判し、近未来で起こりうる問題を予測して解決策の設定や建設的な提案を行う姿勢を養う。

関連情報	http://www.jointbiomed.sci.waseda.ac.jp/curriculum/index.html
------	---

学科専攻名	共同先進健康科学専攻
課程	博士課程
授与している学位	生命科学

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>・先進健康科学の基盤となる、農学、工学、健康科学に関して多面的で基礎的な知識や実験・計測技術を早稲田大学と東京農工大学との共同大学院カリキュラムの履修により幅広く身につけること。</p> <p>・バイオテクノロジー、食品、創薬、スポーツ科学、獣医学、医科学に関する最先端の専門知識や実験・計測技術を身につけること。</p> <p>・農学、工学、健康科学の総合的な理解と、相互に関連する問題の関係性を明確に捉える独創性と国際的な視野かつ各専門分野や融合分野において課題を見出し、実践する実行能力を身につけること。</p> <p>・実験データの整理法、研究成果発表のための資料作成方法を習得し、実践的なプレゼンテーション能力や論理性に基づいた的確な質疑応答の能力を身につけること。</p> <p>・健康科学分野における産業構造や関連企業の社会的責任や知的財産権管理などの知識を理解し、研究者や技術者の社会的使命を心得て、社会実装にむけた研究開発リーダーとなりうる素養を身につけること。</p> <p>・国際共同研究における英語によるプレゼンテーション力、ディスカッション能力、及びコミュニケーション能力を養い、独創的な研究課題の積極的なファシリテーション能力を身につけること。</p>
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>・先進健康科学に関連する農学、工学、健康科学およびそれら結び付ける様々なシステムに関する専門科目、専攻基軸科目、演習科目などを早稲田大学との共同大学院カリキュラムにより横断的に学ばせ、多面的な基礎知識と多様な最先端の実験・計測技術を習得させる。また、先進健康科学セミナーや論文指導などにより、独創的な研究展開力、課題設定力、技術開発力を習得させる。</p> <p>・専門科目である生命科学、環境科学系講義や専攻基軸科目の履修を通して、健康科学分野に広く構成される学際領域の相互関連性と専門領域の知識や技術を支える基軸について学び、各専門領域とそれらの学際領域あるいは融合領域における課題を発見する能力を養成する。また、実践英語教育科目によるプロフェッショナルコミュニケーション、テクニカルプレゼンテーションによる国際的な英語技術修練に取り組み、演習科目による先進健康科学研究、実践プレゼンテーションを通じた解決課題力の養成、解決策を立案し実践する能力を養う。</p> <p>・実地研修による海外研修、国際学会発表への参加を促進し、国際的研究環境における実践的プレゼンテーション能力や先端科学技術のセンスを養うとともに、実践英語教育科目で培った英語によるコミュニケーション能力、ディスカッション能力及びファシリテーション能力を自身に習得し、国際的な場でリーダーシップ人材へと育てる。</p> <p>ディプロマ・ポリシーで定める獲得を身に付けた技術者・研究者・教育者を育成するために成績評価は、講義科目では試験、レポート等で、実験・実習、演習ではレポート、口頭試験等で評価する。授業科目の試験の成績は、S・A・B・C及びDの5種類の評語をもって表し、S・A・B及びCを合格とし、Dを不合格とする。合格した者には所定の単位を付与する。また、学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行う。</p>

学修成果1.	理学・工学・農学の領域融合型で先端的な大学院教育を通じ、豊かな教養と広い国際感覚及び高い倫理観を有する
学修成果2.	バイオテクノロジー、食品、創薬、スポーツ科学、獣医学、医科学に関する最先端の専門知識や実験・計測技術を有する
学修成果3.	農学、工学、健康科学の総合的な理解と、相互に関連する問題の関係性を明確に捉える独創性と国際的な視野かつ各専門分野や融合分野において課題を見出し、実践する実行能力を有する
学修成果4.	
学修成果5.	
学修成果6.	

学科専攻名	共同原子力専攻
課程	修士課程・博士課程
授与している学位	理学、工学

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	<p>エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学に携わる技術者、研究者として高い倫理観と深い教養を持ち、スピードの速い環境の変化にも対応できる幅広い応用力を身につけ、グローバル化する社会に貢献できる人材を育成する。原子力および放射線にかかわる専門分野の高度な知識と技術を習得し、実地的な応用を考慮した深い専門技術を身につけた人材の育成を目標とする。原子力および放射線の分野において、修得した高度な専門知識と研究能力を用いて問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できる能力を有している人材を育成し、社会に送り出すことを目標とする。</p> <p>理学(修士)の授与を受ける者は、これらに加え、原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識と学際的な理論展開力を身につけた人材の育成を目指す。</p> <p>工学(修士)の授与を受ける者は、これらに加え、原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識とそれらを実社会に応用するための技術を身につけた人材の育成を目指す。</p> <p>理学(博士)の授与を受ける者は、これらに加え、原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識と学際的な理論展開力を身につけ、新たな問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できるだけでなく、指導的な力を発揮できる人材の育成を目指す。</p> <p>工学(博士)の授与を受ける者は、これらに加え、原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識とそれらを実社会に応用するための技術を身につけ、新たな問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できるだけでなく、指導的な力を発揮できる</p>
----------------------------	--

2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>東京都市大学との共同教育課程を編成し、社会要請に即応した「関連分野知識の習得」や「他分野との融合」にも必要な基礎知識を身につけるために、多彩なカリキュラムを提供して、技術面のみならず、安全面、倫理面、リスク管理のもとに、技術的にも人間的にも高い能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。さらに、コミュニケーション能力を高め、原子力技術の専門家としての自己の将来設計を高めるための教育課程を編成する。原子力技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探索する問題発見・解決能力、並びに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。原子力システム、原子力安全、放射線工学、放射線応用の基礎的な分野に加えて、これらの原子力と放射線の基幹技術および耐震技術・リスク評価学に関連する高度で専門的なカリキュラムを配置する。</p> <p>理学(修士)課程では、これらのうち、特に実社会の複合的な問題を学際的な視点から明らかにし、それらを解決する能力を修得するための教育課程を編成する。</p> <p>工学(修士)課程では、これらのうち、特に実社会の複合的な問題を社会実装の観点から明らかにし、それらを解決する能力を修得するための教育課程を編成する。</p> <p>理学(博士)課程では、これらのうち、特に実社会の複合的な問題を学際的な視点から明らかにし、それらの解決に指導的な力を発揮する能力を修得するための教育課程を編成する。</p> <p>工学(博士)課程では、これらのうち、特に実社会の複合的な問題を社会実装の観点から明らかにし、それらの解決に指導的な力を発揮する能力を修得するための教育課程を編成する。</p>
-----------------------------	---

学修成果1.	早稲田大学の掲げる構想・構築力(進取の精神を持って、伝統の殻を破る新しい概念を構築する力)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。
学修成果2.	早稲田大学の掲げる問題発見・解決力(新たな問題を言語化またはモデル化し、解を提案、論理的に説明する力)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。
学修成果3.	早稲田大学の掲げるコミュニケーション力(能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。
学修成果4.	早稲田大学の掲げる健全な批判精神(社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を健全に批判し、建設的な提案を行う姿勢)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。
学修成果5.	早稲田大学の掲げる自律と寛容の精神(自主独立の精神を持って自他の個性を認め、公正な視点で多様性を受容する姿勢)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。
学修成果6.	早稲田大学の掲げる国際性(「たくましい知性」と「しなやかな感性」を持ち、多様な人々と協働して世界の様々な問題の解決に当たることができる姿勢)を有し、それらを原子力エネルギーや放射線利用の分野等に活用できる。